

採用企業向け卒業生調査 の結果について (2024年度)

2024年9月26日

キャリアセンター / IR推進室

実施時期:2024年7月25日～2024年9月12日

回答社数:42社
(2022年度は24社
2023年度は30社)



設問:回答負担を考慮し、自由記述3問のみにした

- ①大学の教育に期待していること
- ②入社後、どういう新卒社員がパフォーマンスを発揮しているか。
その特徴、特質はありますか？
- ③上智大学の卒業生に対して、他大学に比べて弱いと感じられる点、
印象に残らない点について、思いあたるところがございましたら、
教えてください。

生成AIによる「設問1」の自由記述の要約

- ・ChatGPT有料版(GPT4 omni)の、一次チャット機能を使用(オプトアウト)
LLMに学習されない、ChatGPTに履歴が残らないモード
- ・文字数は、約2,500文字
- ・個人情報、個人や企業名を特定する記述は、事前に削除しています。

【プロンプト】

下記のテキストは、企業向けの卒業生調査で、
設問は「大学の教育に期待していること」です。
インサイトをまとめてください。

設問1：大学の教育に期待していること①

この卒業生調査の自由記述回答を分析すると、企業が大学教育に期待する点にはいくつかの主要なテーマが浮かび上がります。

1. 主体性と自主的な学び

多くの回答において、学生が自ら考え行動する力を身につけることが強調されています。主体的に問題解決に取り組む力や、自発的な学びの姿勢を大学教育で促進してほしいとの期待が高いです。

2. 専門性と広範な教養

専門知識の習得はもちろん、幅広い教養や多角的な視点を育むことも重要視されています。グローバルな視点や社会的責任感、倫理観、デジタルリテラシーなど、実社会で必要となるスキルや知識が求められています。

3. グローバル視点と多様性

グローバル人材の育成に対する要望が多く見られます。語学力や異文化理解、国際的な視点を持つことが期待されており、学生が世界的な課題にも対応できる力を養うことが求められています。

設問1：大学の教育に期待していること②

4. コミュニケーション能力とチームワーク

組織での協働やコミュニケーション能力の重要性が多くの企業で言及されています。ディスカッションやグループワークを通じて、意見を伝える力や他者と協力する力の強化を期待する声が強いです。

5. 思考力と問題解決力の強化

ロジカルシンキングや多角的な視点で物事を考える力が求められています。これは、問題解決において様々なアプローチが必要とされるため、大学ではこうした思考力を磨く場を提供してほしいという要望につながっています。

6. 柔軟なキャリア選択のサポート

大学が提供する教育が、学生に多様なキャリアの選択肢を開くことを求めています。特定の分野に限定されず、広く学ぶ機会が必要であると同時に、キャリアの方向性を見つけるためのサポートも期待されています。

これらのインサイトから、企業は単に知識の習得だけでなく、実社会で役立つスキルや態度、そして幅広い視野を持つ人材の育成を大学に期待していることがわかります。

生成AIによる「設問2」の自由記述の要約

- ・ChatGPT有料版(GPT4 omni)の、一次チャット機能を使用(オプトアウト)
LLMに学習されない、ChatGPTに履歴が残らないモード
- ・文字数は、約2,600文字
- ・個人情報、個人や企業名を特定する記述は、事前に削除しています。

【プロンプト】

下記のテキストは、企業向けの卒業生調査で、

設問は「入社後、どういう新卒社員がパフォーマンスを発揮しているか。
その特徴、特質はありますか？」です。

インサイトをまとめてください。

設問2 :入社後、どういう新卒社員がパフォーマンスを発揮しているか。 その特徴、特質はありますか？①

この卒業生調査から得られるインサイトをいくつかの主要なテーマに分けて整理すると、以下のようになります。

1. 主体性と積極性

- 自発的に行動し、自己発信ができる人材が高く評価されています。特に、仕事を「自分事」として取り組み、主体的に課題を発見し解決に向けて行動する姿勢が重要視されています。また、自分のやりたいことが明確であることや、失敗を恐れず挑戦する姿勢もパフォーマンスを発揮する要因とされています。

2. コミュニケーション能力

- 他者との連携やコミュニケーションを円滑に行えることが成功するための重要なスキルとされています。特に、多様な世代や異文化の中でコミュニケーションを取り、チームワークを重視しながら仕事を進める力が高評価されています。語学力を活かした国際的なコミュニケーション能力も、グローバルな環境での活躍につながる要因です。

3. 成長意欲とレジリエンス

- 成長意欲があり、失敗から学び、立ち直る力(レジリエンス)を持つことが重視されています。新入社員に対しては、短期間で成長し、自己改善の意識を持っていることが期待されており、これが結果的にパフォーマンス向上につながっています。

設問2 :入社後、どういう新卒社員がパフォーマンスを発揮しているか。 その特徴、特質はありますか？②

4. 知識の活用と学びへの貪欲さ

- 専門的な知識を持ちながらも、広い視野を持ち、好奇心旺盛で新たな挑戦に取り組む姿勢が求められています。特に、国際教養学部や新聞学科出身者が、自身の学びや経験を活かし、語学力や国際的視点を活用してパフォーマンスを発揮している事例が目立ちます。また、データに基づいた意思決定が求められる場面でも、適切にインプットしアウトプットする能力が強みとされています。

5. 柔軟性と適応力

- どんな環境にも前向きに対応できる柔軟性や、周囲を巻き込みながら課題解決に向けて行動する能力も、パフォーマンスに寄与しています。また、異文化に対してオープンで、積極的に挑戦する姿勢も評価されています。

6. 礼節と協調性

- 基礎的な礼節を弁え、謙虚でありながらも自身の意見をしっかりと伝える力がある人材が、周囲との協調をうまく行いながら高いパフォーマンスを発揮しています。また、明るく素直な姿勢や、周囲からの指導を積極的に受け入れる姿勢も重視されています。

これらの特徴を持つ新卒社員は、企業内で成長しながらパフォーマンスを発揮しやすく、特に国際的な視点を持ち、主体的かつ協調的に行動できる人材が活躍していることがわかります。



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS